

耕作条件の厳しいリアス式海岸の農地を地域全体で保全

岩手県大槌町 小槌地区



農業を担う者数 (担い手)	11経営体	農地面積 (うち農振農用地)	85ha (85ha)	主な農畜産物	稲・露地野菜 ・肉用牛
農業地域類型	山間農業地域	遊休農地	0ha	現状の集積率 (目標)	17% (40%)

地域の現状と課題

- 若手後継者が少なく、担い手不足が著しい。
- ニホンジカ等による農作物の食害被害が多い。
- 機械も転回できないような狭隘狭小な農地が点在しているため、農地の集積や作業の効率化も難しく、トラクターや車両が進入できる農道が整備されていない場所もある。
- 畜産農家は堆肥の処分に困っており、水稻・野菜農家は町外から堆肥を購入しており、町内で循環できる仕組みがない。
- 地域の一部においては、中山間直接支払制度や多面的機能支払制度を活用し、農地の保全活動に取り組んでいる。
- 農地保全や鳥獣被害対策等に取り組む地区営農組合が令和4年3月設立され、農業を担う者として活躍が期待されている。

将来の地域農業の方向性

- 花巻農協が産地化を進めるピーマンや産直施設での引き合いが強い高収益野菜を主要作物とし、ワラビや山椒等、中山間地域の特性を生かした特産品の生産及び6次化に取り組む。
- 所有者が離農し、その後の活用を希望する農地については、立地及び耕作条件を鑑みたうえで、農事組合法人や営農組合等への集積や集約化を進め、場合によっては、定年帰農者や地域外の農業者を受け入れ、地域全体で利用する仕組みの整備を進める。

協議を進める過程で発生した課題

第1回ワークショップでは、現況地図に今年作付けした農地は青、草刈した農地は黄色、何もしなかった農地は赤のシールを貼り、耕作状況が見える化し、守っていく農地の共通認識ができた。



現況地図にシールを貼っている様子



取組経緯(課題への対応)及び今後の予定

- 地域計画策定準備説明会(7月21日)
 - ・町広報を活用し、参集者の掘り起こしを実施
 - ・中心経営体や農業委員等19名に、地域計画や協議の進め方等を説明
- 第1回ワークショップ(10月4日)
- 第2回ワークショップ(12月26日)
 - ・農業者等17名は地域計画(案)について検討
 - ・あわせて、農業を担う者や地域計画の目標達成に向けた重点的な取組をリストアップ
- 協議の場の結果の取りまとめ・公表(1月12日)
- 地域計画(目標地図を含む)案の作成(1~2月)
- 地域計画の策定・公告(4月16日策定)



計画案を赤ペンで修正している様子